

私の一歩が世界の「笑顔」に

富山市立南部中学校 三年 藤巻 ひかり

私は「笑顔」という言葉が好きです。なぜなら、人は自分が幸せだと思えると、自然と笑顔になるからです。そんな「笑顔」があふれる世界こそ、誰一人取り残されない、幸せな世界なのではないでしょうか。

私は去年、学校の生徒会活動を通してSDGsの活動を始めました。小学校の頃からボランティア委員として様々な回収活動や東日本大震災で被災された地域との交流、ESDの学習を行っており、SDGs達成につながる活動が私の身近にありました。ボランティア活動をしていたとき、不思議と活動している私たち自身が笑顔になり、活動のさきの人々とのつながりや世界とのつながりを感じていました。SDGsという目標があることを知り、小学生の私を感じていた、社会・世界とのつながりを「SDGs」を通して仲間と

共に実感し、私たちの未来の世界のために行
動したかったのです。

学校で取り組んでいる活動の一つに、千ヨ
ーワ再生があります。毎日の学校生活で、黒
板の溝にたまった短い千ヨークを集めては捨
て、新品の千ヨークを追加するといった動作
の中に、資源の大量消費の問題がかくれいま
す。これを防ぐために、短くはった千ヨーク
を集め、再生千ヨークにつくり直す活動を、
仲間と共に、定期的に行っています。私はこ

の活動を通して気が付いたことがあります。
それは、小さなことでも、まず一歩を踏み出
すことの意味です。この活動を始めから、
友だちとの会話で「SDGs」という言葉を
よく耳にしたり、クラスでの話し合いで、意
外と知らなかった身近に潜んでいる課題への
気づきがあったりと、私たちの身の回りにあ
る問題への意識が変わりました。小さなこと
でも一歩を踏み出すことで、変化が生まれ、
世界の問題解決に一歩近づいていると実感し

ました。さらに現在、校区の小学校とリモ
トでつながり、私の中学校の千ヨーク再生教
室を地域の三つの小学校でも行うことになり
ました。SDGsの意識が中学校、地域の三
つの小学校の生徒から各家庭に広がっていく
と考えれば、はじめの小さな一歩から、校区
の中学生、小学生、そして家族、と少しずつ
大きな一歩になっているのです。

自分の活動が世界につながっていること
目に見えないので、不安になる仲間もいます。
私自身も不安を感じることはありません。しか
し、このような活動には必ず仲間がいて、少
しずつ輪が広がっています。実感はわかなか
ても、どんなに身近なことでも、世界の笑顔
のために行動できるのです。

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大
で、世界とのつながりを身に染みて実感する
今、私たちの未来の世界が「笑顔」でつなが
り、「笑顔」であられるよう、これからも小
さな一歩の踏み出しを重ねていきます。